



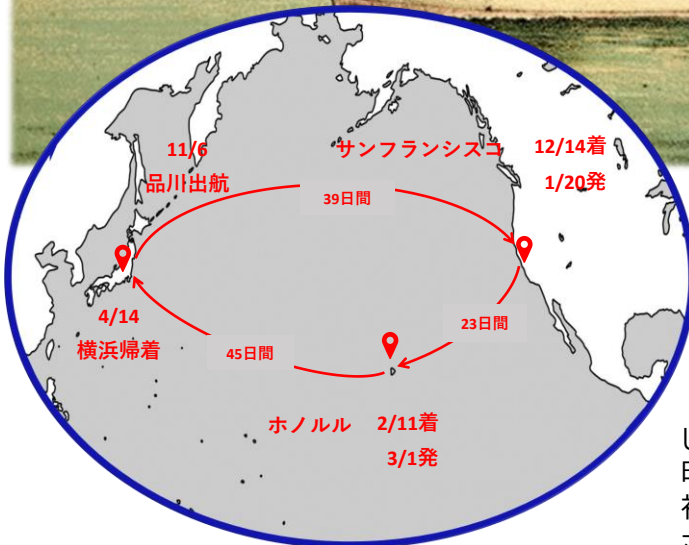
にほしま

史実発掘

移民と軍艦

「筑波」木製軍艦

排水量	1978トン
速力	8ノット
長	34 フィート
幅	18 フィート



軍艦「筑波」

アメリカ・ハワイを訪問

軍艦14隻、運送船4隻。1872(明治5)年兵部省から独立した海軍省が保有する艦船である。この中の一隻「筑波」は、明治政府が1871(明治4)年にイギリス商人から購入した最初の軍艦で、そのほかの大部分は徳川幕府や諸藩から引き渡されたものであった。

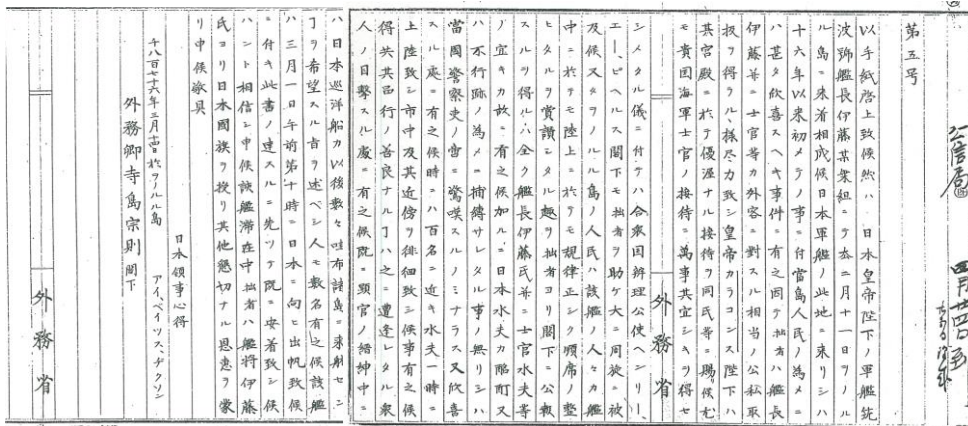
1874(明治7)年台湾出兵により、海軍の兵力、艦船など軍備力の不足を痛感した政府は、翌年イギリスに「扶桑」「金剛」「比叡」の3隻を発注し軍備の近代化を進めた。

こうした中、1875(明治8)年11月6日海軍兵学寮の生徒66人を乗せた「筑波」はサンフランシスコ・ホノルルの遠洋実習航海に出航した。復路寄港したホノルルでは、艦長以下、士官たちは国賓並のもてなしを受け、新政府が誇る軍艦の威容に感動したカラカウア王が乗船を希望するなど両国の距離は一気に縮まった。

それは、ハワイ日本人移民史におけるもうひとつの幕開けでもあった。

第1回海軍練習航海航程図
1875(明治8)年11月6日～1876(明治9)年4月14日

ニューヨーク・デイリー・ヘラルド	1875年12月15日
サンフランシスコ・クロニクル	1875年12月21日
広瀬彦太 太海軍発展秘史	の要約



国立公文書館蔵

公信 第五号

16年ぶりとなる日本の軍艦の来航にハワイ国民は小躍りして喜び、カラカウア王は伊藤艦長ほか士官を宮殿に招き祝宴を催された。

市内見物に出かけた約100人の乗組員は全員実に礼儀正しく、日本の巡洋艦が度々寄港することを望む声も聞かれた。

伊藤艦長より日本国旗を授与され、また様々なご配慮を頂戴した。

在ハワイ日本領事心得

I.B.ディクソン

1876(明治9)年3月14日

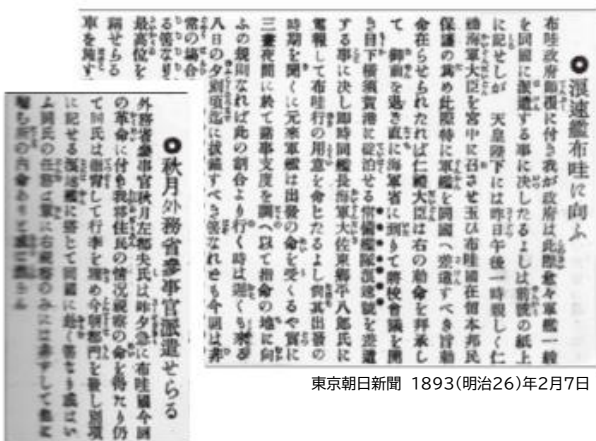
外務卿 寺島宗則 閣下

1893(明治26)年2月23日・12月2日 軍艦「浪速」

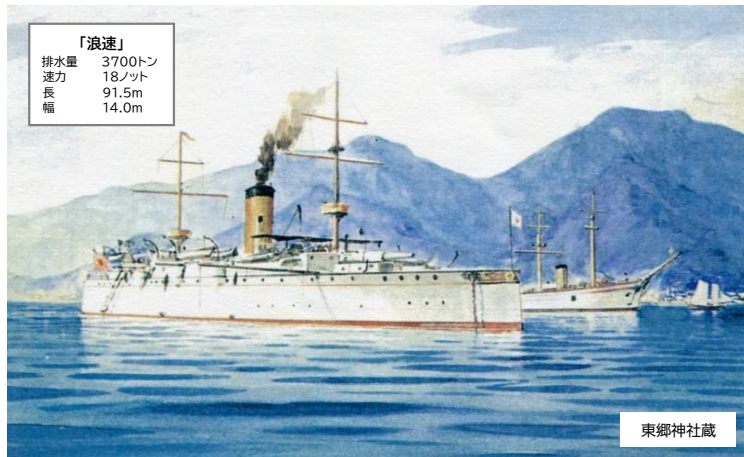
ハワイ王国の政変を心配した明治政府は、外務省参事官秋月左都夫に軍艦「浪速」に同乗して状況査察を命じた。12月23日、秋月は駐ハワイ総領事藤井三郎・艦長東郷平八郎らと情報分析にあたり、「日本人移民の生活には直接的影響はない」と判断して帰港した。

翌年1月17日、臨時政府発足、1周年記念日に不穏な動きが発生した時の対応策として、政府は再び「浪速」に派遣を命じた。

臨時政府は到着した東郷艦長に「艦を満艦飾にして、正午には礼砲を発してほしい」と申し入れをしたが、東郷はハワイ王国の独立を侵すとして断固拒絶。臨時政府に中立的立場を示し、日本人移民の安全を確認して4月2日ホノルル港を後にした。



東京朝日新聞 1893(明治26)年2月7日



東郷神社蔵

1906(明治39)年9月26日 練習艦「姉川」

「姉川」の前身は、日本帝国海軍が日露戦争の旅順海戦で沈没したロシア義勇隊所属の運送船を、引き揚げ後、軍艦に改装した。

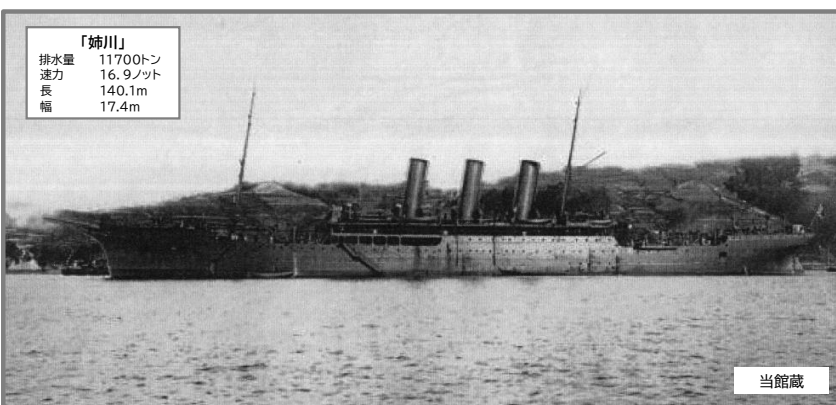
排水量1万1700トン・船長467尺・速力16.9ノット・定員439人の巨艦である。

『姉川来る』の報せにカカアコの日本人漁民たちは40隻あまりの漁船を満艦飾にして港外まで出迎え、「姉川」はこれに登舷礼で答え、花房艦長は漁民たちに乗艦の特別許可を与えた。この感激の熱気は9月30日・10月1日の大歓迎会へと続き、乗組員590人との交歓交流は大賑わいであった。

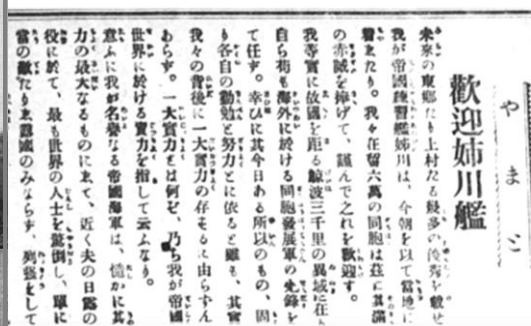
6日午後には艦内に数百人を招いてアットホーム※を催し、同日ヒロに向けて出港。13日にはマウイ島のカフルイ港に寄港した後、再びホノルル港に寄港、送別の大声援を受け、日本帰港の途についた。

日清・日露の戦勝は、在留日本人に民族意識を強く焼き付けただけで、プランテーションで働く日本人に誇りと自信を持たせ、先住労働者の清国人(当時の呼称)より受けていた圧迫感をね返し、その上、日本人社会の発展のエネルギーとなった。

※アットホーム 軍艦に招待してもてなすこと



当館蔵



資料① やまと新聞1906(明治39)年9月26日

1909(明治42)年4月1日 練習艦隊「阿蘇」「宗谷」

親日派と排日派に分裂した ハワイの上院と下院議会

1909(明治42)年2月中旬開催のハワイ議会は荒れ模様となった。

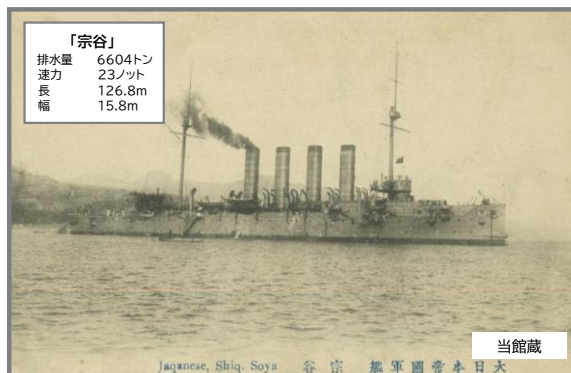
2月18日 開会冒頭にマウイ島選出のコエロ上院議員は、日本人が独占する漁業者を締め出すため「海上3マイル以内の漁業従事者はアメリカ市民権を有する者に限る」との法案を上院に提出した。検事総長は日米条約に違反するとして反対を表明、英字新聞もこぞって反対論を展開したが、わずか1票差で成立した。下院では「魚価の騰貴を招き経済的損失が大きい」として否決、同法案は廃案となった。

2月19日 ダウシット下院議員は「日米親交の維持をハワイ議会の意志」として、アメリカ議会に表明しようと下院に提出、法案は満場一致で可決した。ところがカリフォルニア州マッカーシー議員から「排日法は中央政府とカリフォルニア議会間の問題であり、これはハワイ議会の越権行為である」と横やりが入り、結局ハワイ上院がこれに呼応して法案は握りつぶされた。

4月 1日 ハワイ議会上院と下院が親日、排日論争で揺れ動く中、練習艦隊「阿蘇」「宗谷」がホノルル港に入港。

4月 5日 下院は、日本帝国練習艦隊歓迎決議案を採択した。「世界最大の海戦（日露戦争）に際し、東郷平八郎大将指揮の下で功績をあげた両艦の武人の来航を議員一同歓迎する。練習艦隊の来航は日米両国の親善関係を一層密なるものにすることを確信する。本決議文は日本帝国総領事を経て伊地知司令官に送る。日本万歳」
こうした一連の出来事は、1906(明治39)年10月サンフランシスコ東洋人学童隔離事件に端を発した排日運動がハワイに押し寄せてきた結果である。

しかし、本土とハワイの相違点は①ハワイの日本人が白人労働者の仕事を浸し、その賃金を押し下げるという脅威も全くなく、②土地を手に入れて農業生産を白人農業者にとって替わることもなく、③低賃金で真面目に働く日本人労働者の存在なくしてはプランテーション経営も覚つかないという現実から、結果的にハワイの日本人排斥運動は大きなうねりとはならなかった。特筆すべきは、農地はハワイ人と白人勢力が所有していたため、日本人労働者は農地の取得が困難で農業生産者とはなり得なかったことにある。



資料③ 日布時事 1909(明治42)年4月6日

4月5日在留日本人合同の歓迎大園遊會が開催された。会場のボーイズフィールドには洋食・ビール・果物などの屋台の店が並び、舞台では手品、芸奴の総踊りが披露された。広場では島々から参加した剣士と軍人との撃剣試合も行われ人々の目を惹いた。参加者は約7000人であった。



1914(大正3)年10月21日 軍艦「肥前」

日英同盟条約を締結していたわが国は、1914(大正3)年8月4日、英国が欧州大戦(第一次世界大戦)に参加したことにより、同月23日ドイツに対して宣戦を布告した。

同年10月15日、帝国海軍は対独戦線を「青島方面」「太平洋方面」「布哇方面警備」「インド洋及びオーストラリア方面」「地中海方面」「ウラジオストック警備」の6方面に分ける作戦を立て艦船を配備し、ドイツの主要基地である青島を陸軍と共に3か月余りで陥落した。

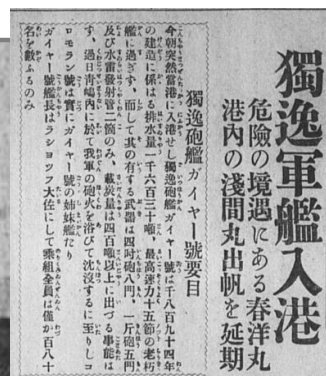
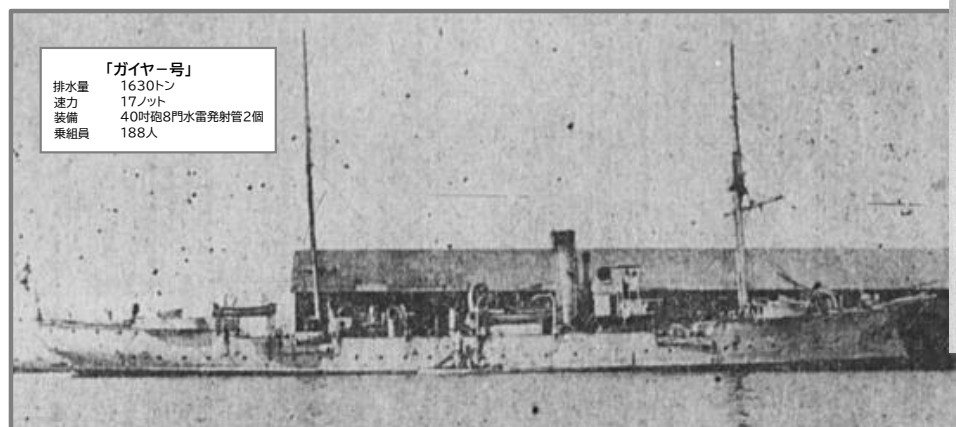
同日、行き場を失った軍艦ガイヤー号が石炭補給船を従えてホノルル港に入港。日英両国領事はハワイ税関長に即刻退去を要請したが、「アメリカは中立国であり、24時間内の停泊は国際法上認められ、しかも修理と補給を目的としている。当職には退去命令を出す職務権限はない」として強制退去の措置は取られなかった。

こうした中、10月21日、戦艦「肥前」が到着したが、交戦国という立場からホノルル港には入港せず、ホノルル沖合5マイルの公海上でガイヤー号の監視を始め、公海上で迎え撃つ作戦を取った。同月30日には「浅間」が支援に駆けつけ、双方のしり合いが続いた。

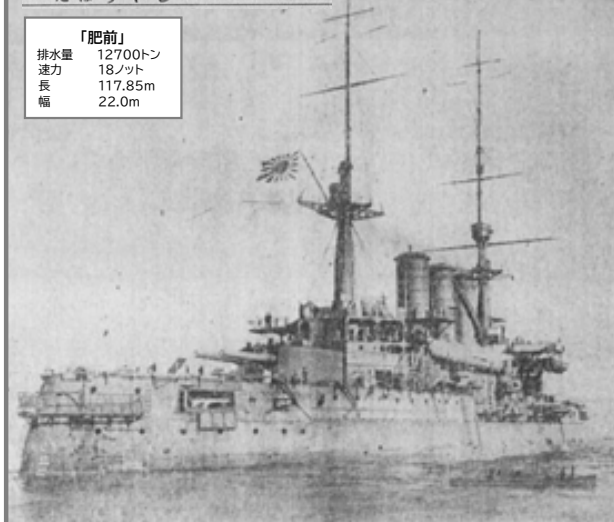
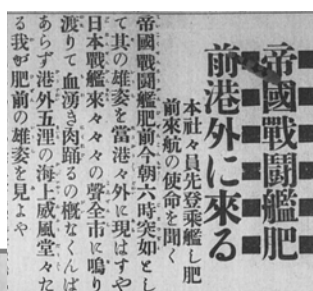
11月8日、ワシントンの命を受けたムーア提督が武装解除を通告、「ガイヤー号」船長は何ら抵抗することなくこれに応じ、乗組員全員は戦争終結まで抑留された。

9日「肥前」はホノルル湾口に投錨。艦長は有田領事を伴い、ムーア提督、知事、税関長を表敬訪問し、翌日、沖合の「浅間」と合流して「太平洋方面警備」に赴いた。

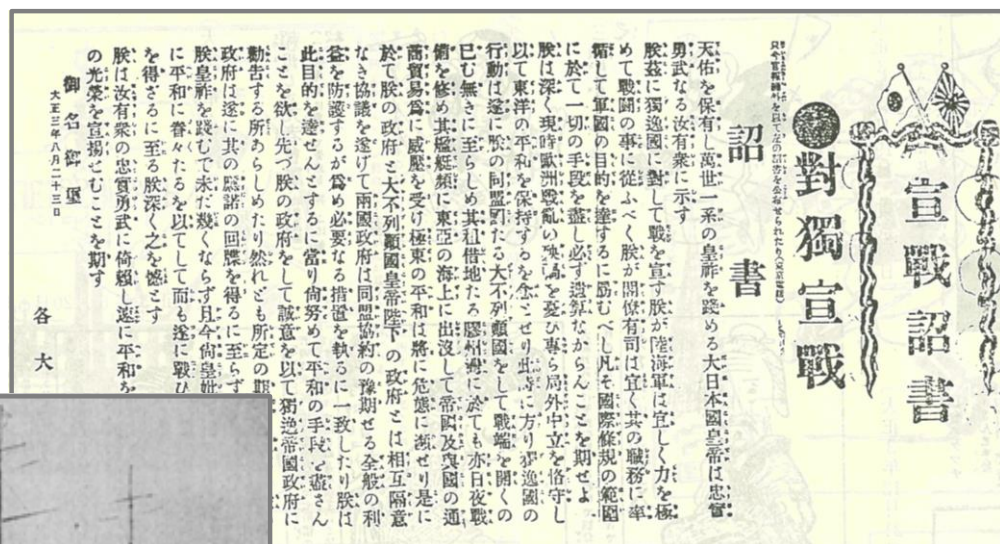
移民史上、戦闘を使命とした初めての軍艦の来訪は、在留日本人の祖国愛をかき立てたが、一方アメリカはイギリスと足並みをそろえて戦った帝国陸海軍の高い戦闘能力に強い警戒心を持った。



資料④ 日布時事 1914(大正3)10月15日



資料⑤ 日布時事 1914(大正3)年10月21日



大阪毎日新聞 号外 1914(大正3)10月23日

アメリカの参戦は1917(大正6)年4月7日

ハワイでは人種国籍を問わず在留日本人も「友邦外人(フレンドリー・エイリアン)」として入隊志願が許可され、日本人中隊が誕生した。

日英同盟条約

1902(明治32)年1月20日～1923(大正12)8月17日

両国の勢力範囲を相互に承認し、国益を排他的に保障しあう軍事同盟条約。1907(明治40)年8月英露協商が成立、1918(大正7)年ドイツ帝国が消滅すると、日英同盟は西太平洋および南太平洋における日本の優勢をイギリスが支持する保証書のようなものになった。

1921(大正10)年、アメリカが提唱した日本、イギリス、フランスとの間で4か国条約が締結されると日英同盟条約は1923(大正12)年8月失効した。

1917(大正6)年5月12日 軍艦「吾妻」

アメリカ駐日ガスリー大使遺体搬送のため、アメリカ本土に向う途中に寄港。

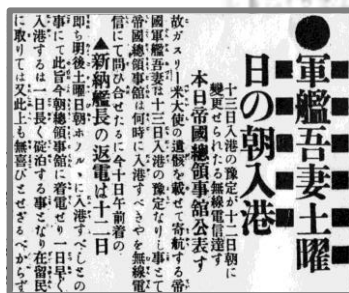
寄港にあたり、帝国総領事館は在留日本人に日米国旗の掲揚について注意を促し、特に漁船には、マストより2本のロープを下げ、右側には日本国旗を左側にはアメリカ国旗を半旗として弔意を表すよう具体的に示した。

1924(大正13)年にもアメリカ駐日大使の遺体搬送が軍艦「多摩」により行われたが、復路の寄港であった。

大正時代の日米間は緊密であった。



布哇報知 1917(大正6)5月11日



布哇報知 1917(大正6)年5月11日



資料⑥ 日布時事 1917(大正6)年5月12日

1915(大正4)年3月25日 F4号遭難

米海軍の潜航艇F4号がホノルル港外約2マイル地点で潜行訓練中、事故により沈没。同海軍は全力を挙げて搜索を開始したが、30日現在発見に至らず。乗組員の生存は絶望視された。

26日、パナマ運河開通式・パナマ太平洋万国博覧会に帝国政府代表者として
参列して米国から帰朝中にホノルルに寄港した出羽重遠海軍大將は、遭難の報
に接し米国海軍卿ダニエルにお見舞い電報を送った。

30日、ホノルルの日本人漁民は、「漁船を出動して支援したい」とムーア提督に申し出て、捜索活動に従事した。

4月1日、有田八郎領事は、横浜正金銀行に新聞社・経済界・宗教界の重鎮を招き、「日本人社会から義援金を募る」ことを決定し、100ドルを贈呈した。

4月16日、日本人商人同志会は別途「金50ドルを米国潜航艇F4号遺族救護会に贈る」ことを決定した。



布哇報知 1915(大正4)年4月6日

練習艦隊本土行を中止 寄港までの出来事

6月 1日 ハワイ米国海軍情報部発表『「八雲」「磐手」の両艦が10月18日ホノルルに、10月22日ヒロに寄港』

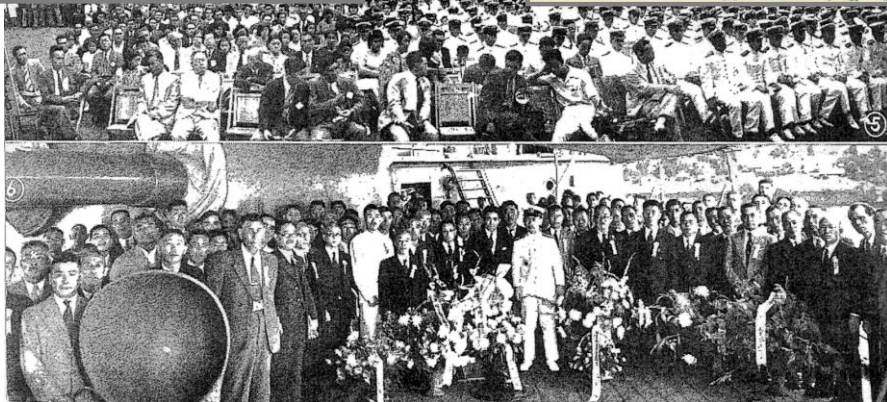
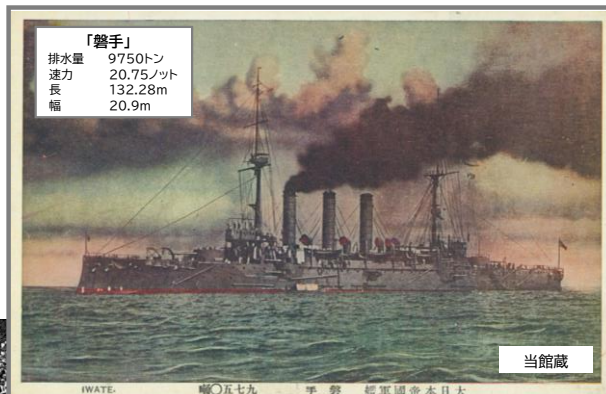
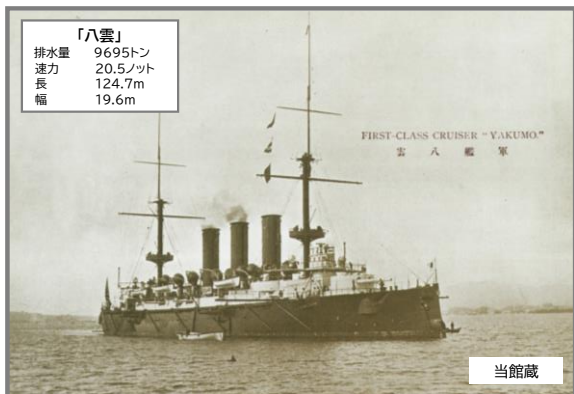
7月26日 アメリカ国務省 日米通商航海条約破棄を発表

9月 3日 英仏がドイツに宣戦布告

9月26日 ハワイ島の日本人に郵送された「日本の愛国国債」が押収される

9月28日 練習艦隊の本土行き中止を決定

アメリカが日米通商航海条約の一方的破棄を通告。英仏対ドイツの開戦。日本を取り巻く世界情勢の急変と確実に悪化の道をたどる日米関係を鑑み本土への遠洋航海を中止。航路を南方方面に変更して12月20日横須賀に帰港した。以後、アメリカ・ハワイへの遠洋航海は行われることなく、2年後の1941(昭和16)年12月7日(ハワイ時間)、日本軍の真珠湾攻撃により太平洋戦争へ突入した。



艦隊歓迎会
於：ホノルル日本帝国総領事館後庭
日布時事 布哇年鑑 1940(昭和15)年

ハワイ島ヒロの艦隊歓迎委員と
司令官澤本頼雄中将
日布時事 布哇年鑑 1940(昭和15)年

[illegible]



軍艦・練習艦のホノルル寄港年表 (特務艦を除く)

1876(明治9)年～1939(昭和14)年

太平洋戦争までにハワイ・アメリカに派遣された軍艦・練習艦のホノルル寄港は40数回に及ぶ。その役割として 訓練、親善、居留民保護、警備、偵察などがあげられる。

寄港年月	軍艦・練習艦名	主な出来事
1876(明治 9)年 2月	①筑波	カラカウア王に謁見
1883(明治16)年 8月	②龍驤(りゅうじょう)	乗組員16人が脚気により死亡
1884(明治17)年 9月	③筑波	
1888(明治21)年 5月	④筑波	
1890(明治23)年10月	⑤筑波	
1893(明治26)年1月⑥・2月⑦・12月⑧	⑥金剛 ⑦浪速 ⑧浪速	⑦ハワイ王国政府崩壊による在留日本人保護
1894(明治27)年 3月	⑨高千穂	⑪日本人上陸拒否事件
1895(明治28)年 3月	⑩高千穂	
1897(明治30)年 5月⑪・7月⑫	⑪浪速 ⑫比叡	
1899(明治32)年 3月⑬・4月⑭	⑬千歳 ⑭比叡	
1902(明治35)年 7月	⑮金剛	
1906(明治39)年 9月	⑯姉川	
1907(明治40)年 2月	⑰練習艦隊 橋立・厳島・松島	
1908(明治41)年10月	米国大西洋艦隊寄港	
1909(明治42)年 4月⑱・11月⑲	⑱練習艦隊 阿蘇・宗谷 ⑲出雲	⑲サンフランシスコでのポーランド祭参列
1910(明治43)年11月	⑳練習艦隊 浅間・笠置	
1913(大正 2)年12月	㉑出雲	メキシコ在留日本人保護 日英同盟によりドイツに宣戦布告
1914(大正 3)年 5月㉒・10月㉓	㉒練習艦隊 浅間・吾妻 ㉓肥前	㉓ドイツ軍艦「ガイヤー号」監視
1915(大正 4)年 3月㉔・ 4月㉕	㉔常盤 ㉕出雲	㉔アメリカ潜水艦ホノルル港外で遭難
1916(大正 5)年 3月	㉖練習艦隊 常盤・千歳	ロシアよりアメリカへ金塊輸送
1917(大正 6)年 5月㉗・6月㉘・7月㉙	㉗吾妻 ㉘練習艦隊 常盤 ㉙吾妻	㉗アメリカ駐日大使の遺体搬送
1918(大正 7)年 5月㉚・8月㉛	㉚練習艦隊 浅間・磐手 ㉛軍艦 浅間	㉛アメリカ参戦によりハワイ近海警備
1919(大正 8)年11月	㉜練習艦 八雲	メイン州合衆国加盟100年祭参加
1920(大正 9)年 6月	㉝春日	
1921(大正10)年 9月	㉞練習艦隊 出雲・浅間	
1922(大正11)年 7月	㉟練習艦隊 磐手・出雲・浅間	
1924(大正13)年 2月㉞・8月㉟	㉞練習艦隊 浅間・出雲・八雲 ㉟多摩	㉟アメリカ駐日大使の遺体搬送
1927(昭和 2)年 7月㊳・8月㊴	㊳練習艦隊 磐手・浅間 ㊴練習艦隊 八雲・出雲	<div> <p>発 刊 語り継ぐ移民の歴史</p> <p>A4判 247頁 定 価 4,180円 (税込) Amazonで注文できます 当館でも承ります</p> </div>
1928(昭和 3)年 8月㊵	㊵軍艦 多摩	
1929(昭和 4)年 7月	㊶練習艦隊 磐手・浅間	
1933(昭和 8)年 6月	㊷練習艦隊 磐手・八雲	
1935(昭和10)年 6月	㊸練習艦隊 浅間・八雲	
1936(昭和11)年10月	㊹練習艦隊 磐手・八雲	
1939(昭和14)年10月	㊺練習艦隊 八雲・磐手	

参考文献及び引用文献

布哇日本人発展史 森田 栄・布哇日本人史 木原隆吉・日本人のハワイ 山下草園・日布時事布哇年鑑・帝国海軍写真と史実 海軍有終会
 明治の海軍物語 中島 武
 大海軍発展秘史 広瀬彦太・外国軍艦の日本訪問に関する一考察 川井 裕・明治海軍の三大航海から その2 大井昌靖・近世帝国海軍史要 海軍有終会
 軍艦筑波－偉大なる航海－岡村 健・戦前外務省記録 軍事、国防、教育、演習
 協 力
 高山善裕 国立国会図書館・寺田 稔 衆議院議員事務所・松木鶴美・中東靖恵・植田佳宏 広島県立図書館・岡村 健・山本朝世 敬称略